

キャラクター名
丹生 夕輝 (におう ゆき)

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ プラム=ストーカー	ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	高校生
オプション	ノイマン	年齢	16(高2年)	性別	女
覚醒	素体	衝動	闘争	初期侵食率	32 %
出自	貧乏	経験	古強者	邂逅	慕情

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	1	0	0			1	行動値	14
感覚	5	1	0			6	(非装備時)	14
精神	2	0	0			2	戦闘移動	19
社会	0	0	1			1	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃	2		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術: 料理	2		知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
槍斧【AMBER】	白兵	1r+4	5	25		4+5 HP [10] 消費 コスト5
100%	白兵	1r+4	5	30		4+5 HP [12] 消費 コスト5
160%	白兵	1r+4	5	35		4+5 HP [14] 消費 コスト5
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 噂好きの友人	
造血剤	
スマホ	
思い出の一品【シルバーリング】	
リーサルシャイン	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
石凧 月	P 純愛	N 不安		
ピサイド	P 家族	N 嫌気		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
戦闘用人格	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
CR:エンジェルハイロウ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
光芒の疾走	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 戦闘移動が行える。封鎖、接触の影響を受けない Lv/シーン								
光の舞踏	1	2	メジャー	武器	-	-	-	
効果: このエフェクトを組み合わせた判定は【感覚】で行える								
赫き剣	4	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: [Lv×2]までHP消費 攻: + [消費したHP+2]の武器作成								
破壊の血	4	2	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果: 《赫き剣》の攻撃力+ [Lv×3]、G値+5 HP2点消費								
渴きの主	1	4	メジャー	至近	単体	対決	-	
効果: 装甲無視 命中時HP [Lv×4]回復								
血の宴	2	3	メジャー	-	範囲(選択)	対決	-	
効果: 対象変更 Lv/シナリオ								
インスピレーション	1	2	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: GMに質問 Lv/シナリオ								
戦神の祝福	1	20	メジャー	武器	-	対決	120%	
効果: 攻+ [Lv+4] D10 1/シナリオ								
ブラッドリーディング	★							
効果: 「君の記憶……教えて？」『なにに、痛くはしねえサ』								
写真記憶	★							
効果: 『こんなバカは覚えてねえけど、オレ様は知ってるぜ?』『バカって言うな!』								
ウサギの耳	★							
効果: 「みんなして内緒話するい!」『あのなあ……』								
真相告白	★							
効果: 『おい、痛いおもいする前に吐いたらどうだ?』『わ、悪いことはだめだよ!』								

「……丹生 夕輝。ユキでいいよ……私のことは」

『ヒャヒャ! オマエの相手はユキじゃなく、このオレが直々にやってやるヨオ!』

――経歴――

彼女には初めから『家族』と呼べるものはいなかったのだろう。町外れのあばら家に母と2人、暮らしていたことは覚えている。父の姿はほとんど覚えていない。過去に優しく抱きしめられたことと、2人を残して去っていく後ろ姿だけだった。母はお世辞にも「いい人」ではなかった。重度のアルコール中毒で、お酒を飲めば彼女に暴力を振るう。多額の借金を背負い、若い男の元へ行ったと思えば何日も帰らない。それが元からなのか、父と別れた為なのかは知らないが、少なくとも母は幼い子供を満足に育てる事の出来る人間ではなかった。

故に、少女は自分は死ぬのだと信じていた。悲しみさえ抱かない。生きることに執着などなかったからだ。『幸福な家庭』なんて絵本の中のお話。何も出来ない自分は、過ぎていく時間と共にジワジワと死に近づき……のはずであった。

「我々はUGN。君を『保護』しにきた」

何人かの大人が君を「借金のカタ」としてあばら家から連れ出したのは、奇しくも君の3歳の誕生日だった。

衰弱死寸前の少女はUGNへ運ばれると、すぐさまとある施設へと送られた。そこは人為的にレネゲイドを感染させ、オーヴァードを発症させる実験場だった。多くの子供の泣き叫ぶ声が聞こえ、血の匂いが充満する。少女のような身寄りの無い子供はUGNにとっても格好のモルモットだったのだろう。

